

私は大学に入学して初めてTOEICを受験しました。TOEICという試験自体大学に入ってから知ったようなものでも初めての時は緊張しながらも長い試験時間にうんざりしながら受験した記憶があります。リスニングは早くてちょっと目を離すと数問進んでいるし、リーディングは1問解くのにとっても時間がかかってなかなか進まない。焦って訳が分からなく…ということが多くありました。なので、最初は問題形式に慣れることに重点を置こうと思い、TOEICの問題集もいくつか買いました。最初は真面目にやっていたのですが、だんだん問題集には手が行かなくなりました。よくあるパターンで、ただ問題を解いていくことに疑問を感じるようになっていました。「英語の能力なんて測れるはずない！」と言って逃げたこともありました。どちらも間違った考えではないと思うのですが、それを理由に怠けていたのです。しかし周りの友人が頑張っているのを見て、私はその考えが自分にはまだ早く、努力の必要があると気付きました。しかし努力はしようと思うけれど、問題集は続かないし…・・・ということでそれからは色々な事を試しました。まず私が手に取ったのは「映画」です。映画は一度日本語字幕で観てから英語字幕で観るようにして、ディクテーションの時間も作りました。自分1人でもしましたが、友人とやることも多かったです。聞き取りにくい箇所を言い合ったりしながら楽しんで出来る、いい方法だと思います。自分の好きなシーンは台詞が言えるようになるくらい観ていました。会話に関しては、学校の他にも教会で行われている英会話教室などに参加していました。3年生になってからは、上級英会話の履修も会話の練習に色々な意味で大きな役割を果たしています。読み書きに関しては、授業の予習をするようにしたり、興味を引く本を読んだりしていました。結果、学校が終わってからは英語しか聞いていないという時期もありました。しかし、自分の好きなことばかりをしていたので、全く苦ではありませんでした。これらを通して感じたことは、(TOEICに限ったことではありませんが)自分の考え一つで何でも変わるということです。「みんな受けているし…」とか、「履歴書に書けるし…」といった考えでは最初の頃の私と同じような考えになってしまうと思います。もっと残念なのは英語を勉強することが楽しくなくなってしまうことです。苦しい思い(スコアが伸び悩んだり語彙のなさがっかりしたりなど)をすることはこれから先もあるでしょうが、私は私なりに「焦らずに」できることをしていこうと思います。それから、スコアが上がることはとても嬉しいですが、一緒にあれこれ言いながら勉強できる友人がいることは、もっと喜ぶべきことだと思います。